

帰還と宣教報告

2022年11月6日

使徒の働き 14章19～28節

序：パウロの第一次伝道旅行

シリアのアンティオキア ⇒ キプロス島 (サラミス、パポス) ⇒ ^{パンフィリア}ペルゲ ⇒
⇒ピシディアのアンティオキア ⇒ イコニオン ⇒ リステラ ⇒ デルベ
⇐ " ⇐ " ⇐ " ⇐ "
⇒ペルゲ ⇒ アタリア ⇒ シリアのアンティオキア

I. リステラで

- (1)生まれつきの足の不自由な人のいやし
- (2)パウロとバルナバを神々にして、いけにえをささげようとした (止めさせた)
- (3)アンティオキアとイコニオンの反パウロの人々が来て、群衆を懐柔、パウロ石打
- (4)死んだものとして町の外に引きずり出されるが、起き上がって町に入る
- (5)バルナバとパウロは、デルベに向かった

群衆を扇動、暴動に近い状態になったところで、パウロを石打ち
取り囲んでいた弟子たちの見ているところで、蘇生 by神の力

このできごとに対して、パウロ⇒テモテ テモテⅡ 3・11

II. デルベで

位置は、リステラやイコニオンより東部

二人は福音を宣べ伝えた ⇒ 多くの回心者 (ガイオ 20・4)

第三次旅行時の同行者

ここから帰途につく

III. 折り返し、往路を戻って行く

デルベ ⇒ リステラ ⇒ イコニオン ⇒ アンティオキア

いのちの危険にさらされ、人々の分断、反対勢力の強大さを分かった上で

(1)新生したばかりの信者たち (教会) を励ます

①信仰にしっかりとどまるように勧めた

②信仰生活の現実 (苦難、迫害) と覚悟

神の国に入るため (目的)、地上では多くの苦しみ

(2)教会ごとに長老を選び、信者たちを主に委ねた

霊的、実際の生活での指導者

但し、真の牧者は主 (長老たちはその僕、主とみことばと教会に仕える)

∴ 信者たち (弟子たち) を彼らも使徒たちも信じている主に委ねた

IV. ピシディア (アンティオキア) ⇒ パンフィリア (ペルゲ) ⇒ アタリア ⇒ シリア
乗船 (アンティオキア)

(1)ペルゲでみことばを語った (往路では上陸しただけ)

13・13

(2)アタリアで乗船、キプロスには寄らず、まっすぐシリアのアンティオキアへ帰還

神の恵みに委ね 二人を海外宣教のため派遣
" より 使命を成し終えて帰還

V. 宣教報告

福音宣教は派遣する教会と派遣される働き人の共働の業 (主権者は聖霊)

(1)教会の人々を集めた

(2)神が自分たちとともに行われたすべてのことを報告

(3)神が (ユダヤ人ばかりか) 異邦人に信仰の門を開いてくださったことを報告
アンティオキア教会には、異邦人のキリスト信者が多数いた

ともに、神に感謝と賛美をささげ、喜びを共有

(4)パウロとバルナバはアンティオキアの信者たちと信仰生活をともにした
次の主の召命を待つ、準備の時、母教会での奉仕

VI. 結び

(1)若い信者への配慮、教会の基盤を据えるのも、宣教の重要な部分
だから、危うく殺害されそうになった場所に戻って、励まし、勧めた
種蒔き、水やり、信者の群れとして成長するに必要なこと

(2)信者のこの世での生活は苦しみが伴う (御国に入るために / 不可避 / 覚悟)
信者でない人にも苦しみはある、ただ、苦しみの目的、種類は異なる
神の恵み、祝福も大きい

(3)信者は、自分自身、家族、仕事、信仰生活を神の恵みに委ねる

(4)教会の指導者は、聖徒たちの養育の導きをされる聖霊によって、祈りとみことば
の奉仕をなす 神の恵みに委ねて

(5)国内外の宣教活動は、派遣する教会と召命により送り出される伝道者の両方の
働きの総計 (祈りと支援、実際の福音伝道)
私たちはどちらかの立場で、福音宣教の働きにあづかっている

例：宣教師たちの宣教報告 (デピュテーション)